

～学校・家庭・地域で通じ合う心～

協働通心

令和3年度

第4号

発行元

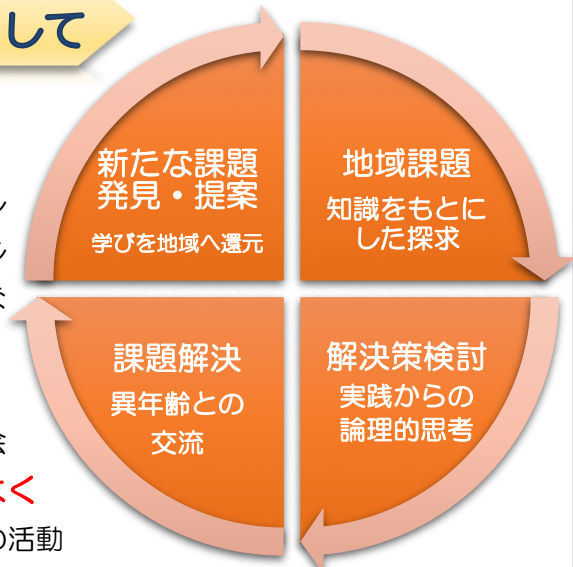
草津市教育委員会

生涯学習課

課題解決型の地域協働合校を目指して

今年で23年目を迎えた**地域協働合校事業**は、大人と子どもの協働による地域学習社会の構築を目指してきました。この事業を今後、さらに充実したものするためには、学びの場を学校内だけに閉じず、地域との連携を強化して、学習の課題を身近な地域に求め、豊かな学びの成果を地域に還元する循環型システムの構築が重要です。(右図参照)

これまでの活動も大切にしつつ、学校教育と社会教育の区分を超え、子どもたちが「**社会をよりよく変えていける**」と実感できるような課題解決型の活動を推進し、地域社会の希望となる子どもの育成とともに、地域の活性化を目指したいと考えています。



緊急事態宣言下の地域協働合校

市内小中学校では、総合的な学習の時間や教科等を関連付けながら、地域住民の支援により体験的な学習の場を創出しています。例えば、小学5年生の社会科「私たちの食生活を支える食糧生産」では、稲作体験を実施している小学校があります。校内や校区内、またはJA

の畑を借りて、田植えから稲刈りまでの生産活動を体験しています。

しかし、8月末から発令された緊急事態宣言により、学校外の教育活動が制限され、地域住民の協力を得ながらの稲刈り体験ができない状況となりましたが、地域コーディネーターを中心に稲刈りの様子や方法を、写真や吹き出しを用いた資料にまとめ、教育活動で活用できるように作成いただきました。



いねの根元を持って、かまでかりとります。

5～6束くらいになったら、3束くらいのいねで、くるりとまいてくれます。

たばねたら、根元をトントンとそろえます。